

推進員第2回スキルアップ研修会開催

～地球温暖化リスクと気候非常事態からSDGs～

1月14日に「ホテルレイクビュー水戸」にて茨城県地球温暖化防止活動推進センター主催の推進員第2回スキルアップ研修会を開催しました。この研修会で本年度4回の研修は最後となりました。新型コロナウイルス感染症拡大もあり、会場には推進員と市町村職員等60名の参加となりましたが、予めリモート視聴のお知らせを促しておりましたので、Zoomにより20名の推進員と、各地域センターや会員様など合わせて124名の方にオンライン参加をいただきました。事務局では感染症拡大防止のため、2人掛けの机に飛沫防止ボートの設置、事務局員全員マスクにフェイスシールドをつけるなど感染防止に最善を尽くしました。

今回は、「地球温暖化リスクと気候非常事態からSDGs」をテーマとして、わが国を代表されてご活躍されている3人の先生からの講演と事例発表していただく推進員に登壇いただきました。

第1部 「気候危機のリスクと社会の大転換」

国立研究開発法人 国立環境研究所 地球環境研究センター

副センター長 江守正多氏

気候変動のリスクとその取組みを行うための社会システムの変革の必要性を学びました。特に気候変動への「無関心」問題について、人々が無知なことや自分勝手なことが原因ではなく、関心のある人も含めて「負担意識」があるからではないかとし、脱炭素は前向きな社会のアップデートであり、「本質的な関心を持つ人」を増やしてシステムの変化を起こすことから脱炭素に向かう社会構造ができることを提言されました。



また、世界に遅れをとっているとされる日本には、再生エネルギーのポテンシャルは十分にあり、風力発電を中心に導入した場合の可能性量は今の電力需要の約2倍になるそうです。最後に、気候危機とコロナ危機に共通する背景には、人間活動の拡大による生態系への浸食、際限のない物質的な需要の拡大、社会的な格差の再生産が根本的な問題であることが挙げられており、この出口を見出すキーワードは全国民の行動の大転換にあることを強調されていました。

第2部 「気候危機～気候崩壊、文明崩壊を防ぐ時間的猶予はゼロに近づいている」

東京大学名誉教授 山本良一氏

アジア最大級の環境イベントであるエコプロ実行委員長や昨年11月に設立された気候非常事態ネットワークの代表である山本先生は、すでに気候危機から気候崩壊の瀬戸際に立たされている現状において、世界中で行われている活動、特にグレタ・トゥンベリさんをはじめとする若い世代の活動や世界中の国や自治体、様々な団体が気候非常事態を宣言

していることを紹介されました。

環境分野における技術革新では、モノよりも人の心構えが先に来なければならないこと、また時間的猶予がほとんどない中では、新しい技術をこれから考えるよりも既存の技術を使った技術革新を進めないといけないとのお話でした。

山本先生は水戸市の出身で、いまの気候崩壊を止めるために残された最後の時間を第二の明治維新にたとえ、江戸時代から明治維新への変革期に活躍した水戸が、今回まだ気候非常事態宣言をしていないことを挙げて、この動きは政治の決意表明でもあり、水戸市が気候非常事態宣言することを切望すると力強くお話されました。気候非常事態宣言自治体は全国で47(2021年1月21日現在)となり、県内では取手市のみに留まっていることから、県も市町村もこれを早期に宣言すべきと、力強く講話を締めいただきました。

第3部 SDGs目標達成に向けて

「地球的課題としての環境問題」常磐大学 学長 富田敬子氏

SDGs目標達成に向けて常磐大学富田学長に登壇いただきました。国連に30年間勤務された経験から、まず環境問題の国際的な変遷をお話いただきました。環境が国際的な議題となったのは1960年代以降で、1987年にブルントラント委員会で経済社会・開発と環境保護を合わせた「持続可能な開発」という新しい概念が生まれ、地球サミット(リオサミット)などを経て、2015年に採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」でこれまでの議論が集約され、SDGsが生まれたことを知りました。現在、学長を務めている常磐大学では、継続したホテル再生活動や地域菓子のブランド化、水戸ホーリーホックのボランティア支援などの地域協働を進めながら、国際的に活躍できるグローバル教育にも力を注いでいるそうです。

「学校法人田中学園 緑丘学園 ゼロカーボン委員会」

茨城県地球温暖化防止活動推進員 齋藤翔生氏

茨城県地球温暖化防止活動推進員で高校3年生の齋藤翔生氏から活動事例発表をしていただきました。齋藤推進員は中学校入学時に科学部に入部し、今日までホテル再生プロジェクトなど様々な環境保全活動に取り組んできました。

近年では、こどもエコクラブのユース活動などを通して、全国各地で活躍し、涸沼ラムサールネイチャーガイドになるなど、幅広く環境活動に邁進しています。若手の推進員が育っていることは、とても頼もしく感じました。

今年度の4回にわたる研修会を開催するにあたり、お忙しいなか、快くご講演をお引き受けくださいました各講師の皆様にご挨拶申し上げます。

